

鳩山町 こみねたかお 小峰孝雄町長 コメント

この度、鳩山町内にある「南比企窯跡」（石田遺跡・新沼窯跡・天沼遺跡の3遺跡）が、国の文化審議会から文部科学大臣に対して、国の史跡に指定するよう答申がなされることとなりました。今回、鳩山町では初めての国指定史跡ということで、町にとりましても、たいへん喜ばしいこととございます。

鳩山町は、関東平野の西に位置し、平野部から丘陵地帯へとかわる場所に位置しています。焼き物を焼く窯を築くのに適した地形と材料となる粘土、豊富な燃料がある里山であることから、奈良・平安時代には500基を超える窯が造られました。また、町内を鎌倉街道上道が南北に走っていることから交通の要衝として発展し、小用鋳物や材木の集散地として栄えた歴史のある町です。

町では、今回国指定史跡となった「南比企窯跡」の、今に残る古代の工房や窯跡を活かし、古代焼き物の里として町の魅力を発信していくよう考えております。今後は、遺跡の適切な保存と観光資源としての活用に向け、町民や関係者の皆様のご理解ご協力を賜りながら、町の発展につながるよう取り組んでまいります。

鳩山町教育委員会 ^{せきぐちみつる} 関口 充 教育長 コメント

この度、赤沼地内の「石田遺跡」と泉井地内の「新沼窯跡・天沼遺跡」が、「南比企窯跡」として国の指定史跡となります。

南比企窯跡は東日本最大級の窯跡で鳩山町を中心に東松山市・嵐山町・ときがわ町に広がり、6世紀前半から10世紀中頃にかけて操業していました。今回指定される遺跡は武蔵国分寺に瓦を提供していた工房や窯で須恵器や鬼瓦などが出土しています。

今回指定される「南比企窯跡」（石田遺跡・新沼窯跡・天沼遺跡）をはじめ、先人が生み出し守り伝えてきた文化財を保存し、後世に伝えるとともに、学校教育や郷土学習の場で積極的に活用し

「風土に根ざす未来の町づくり」とそれを担う豊かな心を持つ「ひとづくり」につなげたいと考えております。